



TITLE:

腹部神経症患者及び末梢血管障害
患者の尿中カテコールアミンに就
いて(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

山本, 孝昭

CITATION:

山本, 孝昭. 腹部神経症患者及び末梢血管障害患者の尿中カテコールア
ミンに就いて. 京都大学, 1968, 医学博士

ISSUE DATE:

1968-07-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/212903>

RIGHT:

【124】

氏 名	山 本 孝 昭 やま もと たか あき
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	論 医 博 第 450 号
学位授与の日付	昭 和 43 年 7 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	腹部神経症患者及び末梢血管障害患者の尿中カテコール アミンに就いて

論文調査委員 (主 査)
教 授 木 村 忠 司 教 授 半 田 肇 教 授 本 庄 一 夫

論 文 内 容 の 要 旨

著者は最近 CA (Catecholamine) の研究が進み、尿中の CA の測定が比較的容易にできること、尿中の CA の測定することによって生体内の CA の分泌の状態を或る程度知ることができること、生体に対する疼痛性刺激が A (Adrenaline) の分泌を促すことが知られていることに着目し、慢性の疼痛性疾患である腹部神経症患者ならびに Buerger 氏病、Raynaud 氏病等の末梢血管障害患者の尿中 CA を測定すれば A の増加があるものと予測し、また両疾患ともに自律神経に密接な関係を有することから CA としてもなんらかの変化があるものと期待し、これらの推定をたしかめるためにこれら疾患患者の尿中の CA の測定を行なった。

ところがこれら疾患患者の尿中には A の増加はほとんどみられず、かえって減少しており、NA (Nor-adrenaline) が多少増加していた。この尿中の予想外の値を示すものすなわち A の異常なる減少は末梢血管障害患者の発病後数年を経たものと長年の訴えを有する腹部神経症患者にこのアンバランスの傾向の著しいことから、慢性の疼痛性刺激によって次第にこのような状態におちいったものと考えた。

さらに腹部神経症患者にいわゆる神経症の治療剤なるモノアミンオキシダーゼを投与すると、CA ことに A の増量を見たにもかかわらず、症状はかえって悪化したこと、A 低値を示していた末梢血管障害患者に新しい刺激を与えることによって CA の増量を見たこと、また末梢血管障害患者にパラガングリオンおよび副腎髓質の摘出術を行なって A の減少、NA の増量を認め前記の CA のアンバランス状態に近づいた患者に一時的ながら症状の改善があったことなどをたしかめ、この CA のアンバランス状態は或る特定の慢性疼痛性刺激に対し、生体が順応または抗ストレス性を獲得したと考えるのが至当であると述べている。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

山本は尿中カテコールアミン (CA) を測定することによって慢性疼痛性疾患である腹部神経症ならびに末梢血管障害たる Buerger 氏病や Raynaud 氏病においては CA 特に疼痛に反応するアドレナリン (A)

の値が増加するとの想定の裏づけを得ようと試みた。ところが案に相違してこれら疾患の尿中CAにおいてAは増加するどころかかえって減少しノルアドレナリン（NA）のみが多少の増加を示すのみであった。しかもこのようなAの異常な減少は末梢血管障害でも腹部神経症でも発病後数年を経たものに共通する現象であり、慢性の疼痛刺激や血管障害に際してしだいに誘発される状態と考えられる。さらに腹部神経症の場合は神経症の治療剤といわれるMao抑制剤を投与するとCAは増加するが症状は増悪する。またA低値を示すこれらの患者に別な刺激を加えると直ちにAは増加する。

これらの事実からこのような慢性疾患におけるCAの不均衡はある特定の疼痛または血管障害に対する一種の適応現象であって副腎髄質の疲労性機能低下によるものではないことがわかった。

本論文は学術上有益であって医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。